

オールカマー

本命はデアリングタクト。

宝塚記念で本命に推奨した際にも解説したように、JRA の上級馬同士なら、非根幹距離で起伏があるコースのほうが有利な馬。もちろん能力も最上位です。

対抗はソーヴァリアント。

母系に中山芝非根幹距離に強いフェアリーキング。
同系の中山 G1 実績馬にファルヴラヴ、ポップロックなど。

神戸新聞杯

サンデー系の伸びを持った馬の中で、非根幹距離適性、欧州血統を強化した血統馬が走りやすい舞台。

あとは、3-5 人気の京都新聞杯上位組をどう考えるか？
3 歳春の 3 歳馬にしては、スタミナの許容量を越えたレースで、内容は平凡。
3 歳秋の馬同士で普通のペースで流れたらスピード負けすると判断しました。

本命はパラレルヴィジョン。

先に書いた条件を満たし、当コースの重賞でも好走目立つキズナの産駒。
母父は欧州のスーパーサイアードバイミレニアム系のマクフィ。
近親に中京芝と非根幹距離に実績を残すメートルダール。

相手に妙味を見出します。

対抗はジャスティンパレス。

父ディープは王道も、母父ヌレイエフ、
母母父レッドランサムは非主流の馬力を強化する血統。

結果的に牡馬のキズナ産駒のようなタイプになってしまうわけですが、
それが当条件にはフィットするわけですし、近走の根幹距離よりも
有利なシチュエーションになります。

3 番手サトノハリオス。

当コースの重賞で何度も穴を出している
父欧州型×母父サンデー系の組み合わせ。

近親にエアシェイディ、エアスピネル。
母系にノーザンテースト。非根幹距離でも減速幅が小さく、
キャリアも強みにする血統。2 歳、3 歳春までの実績以上も期待。

京都新聞杯組から狙うならリカンカブルー。
キズナ同様、非根幹距離に強いディープ系のシルバーステート。
母系も欧州型で 3 歳春よりも秋に上積みを見込める血統。

実際、持続力が強化されているようでしたら、
京都新聞杯当時よりも大幅なパフォーマンス上昇も期待できます。

プラダリアはダービー、青葉賞よりは舞台設定は向きませんが、
下げて発揮する能力も京都新聞杯上位馬よりは上と予想。